

歴史的風致活用国際観光支援事業による市町村の取組と成果

1. 高山市の取組

(1) 取組内容

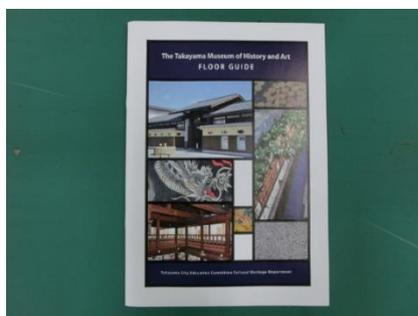
①飛騨高山まちの博物館パンフレット多言語化事業

(2. 歴史・文化への理解を深めるための案内板等の多言語化、ガイドライン策定)

【事業主体】 高山市

【事業期間】 平成27年度・平成28年度

【事業内容】 地域の歴史・文化について紹介する「飛騨高山まちの博物館」において、展示内容を解説するパンフレットを英語、中国語表記で作成した。



パンフレット (外国語表記)

②飛騨高山まちの博物館外国語ガイド養成事業

(3. 歴史・文化ガイドリーダー育成研修)

【事業主体】 高山市

【事業期間】 平成27年度

【事業内容】 博物館内では週末を中心に、ボランティアガイドが無料で展示物等について解説を行っている。増加する外国人来館者への適切な対応を図るため、ボランティアガイドを対象とした外国語講座の実施による人材育成・スキルアップを行う。外国語により展示物等の解説を行うことで、外国人来館者が地域固有の歴史・文化への理解を深めることに寄与する。



(2) 取組の成果

ガイド養成講座

平成 27 年度に本事業によりボランティアガイド養成講座を開設し、また、28 年度以降も高山市独自に養成講座を開設することにより、継続的な人材育成に努めている。

こういった取組により育成されたボランティアガイドは、平成 28 年度以降も博物館利用者数への解説を継続的に行っており、「飛騨高山まちの博物館」の受入環境の整備が図られている。

パンフレットについては、平成 28 年度は約 3,500 部が消費され、外国人観光客の約 1 割に相当する部数が利用されており、高山市の歴史・文化に対する歴史的風致の理解促進が図られている。

これらの取組の結果、博物館の入館者数は 154,217 人(平成 26 年度)から 182,316 人(平成 28 年度)へと約 18%増加しており、うち外国人利用者数は 39,000 人から 46,000 人へと、約 18%の増加となっている。

高山市全体の観光入込客数も 4,025,000 人(平成 26 年)から 4,511,000 人(平成 28 年)へと約 12%の増加が見られており、うち外国人入込客数は 280,322 人から 461,253 人へと、約 65%の大幅増となっている。



飛騨高山まちの博物館（外観）



展示室



ガイドの様子

2. 弘前市の取組

(1) 取組内容

①衣装着付け体験プログラム開発事業

(4. 歴史・文化を活用した訪日外国人向け体験プログラムの開発)

【事業主体】弘前市

【事業期間】平成27年度～

【事業内容】外国人旅行者のニーズとして注目を集めている日本の伝統・

文化体験に応えるため、歴史的風致維持向上計画重点区域「弘前城下町地区」にある弘前公園で藩政時代の衣装着付け体験を提供することにより、旅行者が歴史的風致を実感できるプログラムを開発した。



着付け体験の様子

②外国人周遊ルート休憩所整備事業

(5. 旅行者のニーズに応じた便利施設の機能向上)

【事業主体】弘前市

【事業期間】平成28年度～平成29年度

【事業内容】歴史的風致形成建造物である旧藤田家別邸倉庫（考古館）を、外国人旅行者が回遊する際に歴史的風致の工芸品等に気軽に触れることができるスペースを兼ね備えた休憩所として整備した。
(H29.7.23 開館)



(2) 取組の成果

藤田家別邸倉庫（考古館）

平成 27 年度に本事業によって開発された藩政時代の衣装の着付け体験は、平成 28 年度以降も自立的・継続的に実施され、多くの観光客に利用されている。

着付け体験利用者数は、平成 27 年度は 1,734 人であったが、平成 28 年度は 4,521 人となっており、歴史的風致の理解促進に繋がっている。

この取組の結果、弘前市全体の観光入込客数も 4,676,051 人（平成 26 年）から 4,694,496 人（平成 27 年）へと増加が見られており、うち外国人宿泊客数は 6,208 人から 12,623 人へと約 2 倍となっている。

さらに、平成 28 年度から平成 29 年度にかけて休憩所の整備を行い、弘前市の伝統工芸品等に気軽に触れることができるスペースを整備したことにより、観光入込客数のさらなる増加が見込まれる。

3. 尾道市の取組

(1) 取組内容

①データ収集分析調査事業

(1. 歴史・文化を活用した訪日外国人受入のためのデータ収集・分析、モニタリング)

【事業主体】 尾道市

【事業期間】 平成29年度

【事業内容】 ○Free Wi-Fi のログ分析による観光客全体の実態調査

Free Wi-Fi のログ分析により、観光客の言語等の属性や、日時・時間帯別の訪問場所等について調査する。

目標) 950 人

○直接アンケートによるインバウンド観光客の実態・動線調査

対面調査により、属性や訪問目的等のほか、訪問先及びその情報収集方法について調査する。

目標) 尾道市を訪問するインバウンド観光客 130 人



(調査イメージ)

(2) 取組の活用イメージ

個々の重点区域内における周遊ルートや案内看板等は比較的整備されており、観光入込客数も順調に伸びているが、2つの重点区域を結ぶ周遊ルートについては、車や船舶などの交通手段はあるものの、具体的に提示できていない状況がある。

そこで、「尾道・向島歴史的風致地区」と「瀬戸田歴史的風致地区」の2つの重点区域を連携させ、各区域が持つ歴史的風致を活用した観光振興を図るため、『データ収集分析調査事業』の成果の活用により、サイクリングを活用した周遊ルートの設定、訪問先におけるガイド人材の育成、効果的な媒体を活用した観光 PR 等について検討する。

(参考)

観光入込客数

(人)

H26	H28
4,877,000 (うち外国人 132,000)	5,185,000 (うち外国人 271,000)